

令和3年度 石井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と健やかな体を持ち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために、次の「目指す学校像」、「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校
・分かる授業が展開され、一人一人が生きて活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校
・認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域と共に歩み、信頼される学校
・保護者や地域との連携を強化し、協力合って児童を育成する学校

【目指す教職員像】

- (1) 前向きで 熱意がある教職員
・自らの使命を自覚し、意欲的に職務に励む教職員
- (2) 愛情をもって 子どもと向き合う教職員
・教育的愛情をもち、一人一人のよさや個性を大切にしている教職員
- (3) 自己研鑽に努め 協働を大切にしている教職員
・自ら進んで研修に励み、協力合って職務を遂行する教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、さらに認め伸ばし、豊かな心の育成に努める。
- (2) 一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努める。
- (3) 気力や体力を育む教育活動の充実を努め、生涯に渡って健康で安全に生活できる能力の育成に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、サービスを厳守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるように努める。
- (5) 安心・安全に過ごすことのできる教育環境や落ち着いた生活できる潤いのある教育環境の整備に努める。
- (6) 家庭・地域社会との連携を密にし、地域の教育力を生かした信頼と協力を基盤とする「地域と共にある学校づくり」に努める。
- (7) 勤務時間を意識した働き方の推進及び校内の業務の適正化に努める。また、地域の教育資源の有効活用を図り、教職員が児童と向き合う時間の確保につなげる。
- (8) 陽東地区内の小中学校が連携し、義務教育9年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かでたくましく生きる力の育成を目指した教育活動の推進に努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- (2) 心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。
- (3) 学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実を努める。
- (4) 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- (5) 前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	「地域協議会」との連携のもと、地域の教育力を活用した地域と共に歩む学校づくりの推進 (1)体力と気力増進 (2)確かな学力の定着 (3)豊かな心の育成 (4)地域と共に歩む学校づくり ○(5)地域学校園活動の推進 (6)教職員の資質の向上 (7)危機管理・環境整備の充実
【学 習 指 導】	「自ら考え表現できる言語能力の育成を目指して」 ～教科等の特質を生かす ICT 活用を通して～ ○(1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実 (4)家庭・地域との連携・協力
【児 童 生 徒 指 導】	「豊かな心を持ち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」 ○(1)基本的生活習慣の育成 (2)規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3)望ましい集団づくり (4)個に応じた指導の充実 (5)家庭・地域・関係機関などとの連携
【健康(保健安全・食育)・体力】	「自らの健康や体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成」 ～基礎体力の向上を目指した教科体育の充実、 保健指導及び食育との関連を踏まえた保健学習・学級活動の充実～ ○(1)望ましい食習慣の育成 (2)健康・体力の向上 (3)家庭・地域との連携協力

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
目指す児童の姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童にとって「できた」「分かった」が実感できる授業展開を工夫する。 ② 「石井っ子の学習」に基づいた基本的な学習態度の徹底を図り、学び方を身に付けた児童を育成する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業研究会・一人1授業などを積極的に行い、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.3</td> <td>90.2</td> <td></td> <td>92.6</td> </tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が 7.6 ポイント上回った。本年度も学校園共通の「学習の約束」や「石井っ子の学習」を各教室に掲示し、意識させた。 【次年度の方針】 ・「めあて」から「振り返り」まで一貫した授業を展開し、進んで学習に取り組む態度を育てていきたい。 ・主体的・対話的で深い学びについては、学校課題における校内研修を通して、授業力の向上に努めたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	90.2		92.6
	教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	90.2		92.6									
A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業だけでなく全ての教育活動において体験活動を重視し、思いやりの心を育む。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、人権教育の推進と人権週間の取組の充実を図る。 ③ 児童会活動や縦割り班活動を通して、互いを思いやる心を育む。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>90.0</td> <td>100</td> <td>88.8</td> </tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が 3.8 ポイント上回った。教職員の肯定的回答が 15 ポイント上回った。縦割り班活動においては、コロナの状況に応じて、工夫しながら取り組んでいるが、回数を重ねるごとにそれぞれの学年において成長が見られた。 【次年度の方針】 ・コロナの状況が落ち着いたら、児童会活動や縦割り班活動の更なる充実を目指し、思いやりの心を育てていきたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	90.0	100	88.8	
教職員	保護者	地域住民	児童									
100	90.0	100	88.8									

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図り、基本的な生活習慣育成の徹底を図る。</p> <p>② 生活当番組織を活用し、日常生活の指導の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>89.2</td> <td>93.8</td> <td>96.6</td> <td>86.9</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が1.9ポイント上回った。教職員の肯定的回答が4.2ポイント上回った。生活当番を活用し、組織的に指導を行ってきた成果が出ていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図るとともに、家庭と連携しながら継続的に指導していく。 	教職員	保護者	地域住民	児童	89.2	93.8	96.6	86.9
	教職員	保護者	地域住民	児童								
	89.2	93.8	96.6	86.9								
<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 児童会を中心とした、子供たちの自主的なあいさつ活動を奨励する。</p> <p>② 地域学校園、家庭や地域ぐるみのあいさつ運動を実施し、日常的なあいさつにつなげる。</p> <p>③ 家庭でもあいさつのよさが広がるように、あいさつ週間に「家庭用あいさつカード」を作成し、活用を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>91.9</td> <td>76.4</td> <td>93.1</td> <td>92.5</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が7.5ポイント上回った。地域住民の肯定的回答が8.1ポイント上回った。しかし、保護者との数値には大きな開きがあり、家庭生活を含めた日常生活でも習慣化されることが課題である。児童会や有志を中心に、昇降口付近であいさつ運動を行い、気持ちの良いあいさつを奨励した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的なあいさつの推奨を行い、校外でのあいさつにつなげるようにカードなどを活用し、家庭との連携を図っていく。 ・あいさつ運動を継続して行っていく。 ・便りや、HP、メール等を活用し、家庭への啓発を行っていく。 ・校門や昇降口でのあいさつ運動も含め、朝の登校指導などであいさつを奨励し、学校外でも進んであいさつができる（コロナ禍でのあいさつの仕方を含めて）児童を育てていきたい。 	教職員	保護者	地域住民	児童	91.9	76.4	93.1	92.5	
教職員	保護者	地域住民	児童									
91.9	76.4	93.1	92.5									
<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学習・生活面において自分の成長・達成感が味わえるような目標を設定し、目標達成に向けた支援を行う。</p> <p>② 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>③ 道徳の授業において、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>89.2</td> <td>76.0</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>88.8</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が4.2ポイント上回った。児童の肯定的回答率が3.8ポイント上回った。児童の肯定的回答率が3.8ポイント上回ったが、保護者との数値には大きな開きがあることから、連携が必要であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの活用についての内容等を便りなどで保護者へ周知する。 ・個別支援（石井道場）での学習を通して達成感が味わえるようにしていく。 ・学校の活動を保護者に知ってもらうために、アンケート前にほめほめカードの実施はどうか？回数を増やしてみる。 ・教科体育の中で、できたことを褒め合う場を積極的に作れるようにする。 	教職員	保護者	地域住民	児童	89.2	76.0	/	88.8	
教職員	保護者	地域住民	児童									
89.2	76.0	/	88.8									

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、家庭科、給食、学校行事と関連を図った指導を行う。</p> <p>② 自分の身の安全を守る力を身に付けるため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>92.3</td> <td>96.3</td> <td>93.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が12.3ポイント上回った。保護者の肯定的回答率が7.3ポイント上回った。新型コロナウイルス対策を意識した保健安全指導や、給食指導などが評価されたと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も安全に行動できる態度や危機を想像できる回避能力などが身に付くように指導を続ける</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	92.3	96.3	93.0
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	97.3	92.3	96.3	93.0							
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。</p> <p>② 道徳科の授業や特別活動において「感謝」「公共の精神」について考え、ボランティア活動への意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.2</td> <td>76.0</td> <td></td> <td>88.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が9.0ポイント下回った。児童の肯定的回答率が3.8ポイント上回った。学校全体や各学年での取組の成果が表れていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの活用の仕方について共通理解を図り、各学年で計画的に活用していくとともに、取組について保護者へ周知していく。 ・各学年で総合的な学習の時間の指導を充実させていく。 ・ボランティアの様子を保護者に伝える。 ・質問から保護者には、学校の具体的な取り組みが想像できないため、ポイントを上げるのが難しい。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	89.2	76.0		88.8	
教職員	保護者	地域住民	児童								
89.2	76.0		88.8								
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 英語で伝え合うことの楽しさを実感するために様々な体験的活動を取り入れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② ALTの活用による、児童とのコミュニケーションの場を積極的に設定する。</p> <p>③ 外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td> <td></td> <td></td> <td>90.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.6ポイント上回った。児童の肯定的回答率が5.1ポイント上回った。各学年で年間指導計画をもとに指導を行ってきた成果だと思われる。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、校内研修や教職員同士が学び合える機会を設け、指導力の向上を図る。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6			90.1	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6			90.1								

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを 知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。</p> <p>② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児 童</th> </tr> <tr> <td>81.1</td> <td>64.6</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>82.7</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が2.3ポイント下回ったが、宇都宮に関する掲示物を作成し、児童の意識・知識を高めたことにより、昨年度の肯定的回答より、1.5ポイント上がっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より「宇都宮学」が始まり、自分たちの住む町(市)への意識が高まってきている。 ・他教科(道徳科・図画工作科)との関連を見出し、掲示物を作成するなどして宇都宮の良さを伝えていく。 	教職員	保護者	地域住民	児 童	81.1	64.6	/	82.7
	教職員	保護者	地域住民	児 童							
	81.1	64.6	/	82.7							
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 各教科、総合的な学習の時間において、パソコン・タブレットを有効に活用する。</p> <p>② ICT 機器の授業における活用法など、研修等を通して教員の指導力の向上を図る。</p> <p>③ 授業内容に関連した教育図書の整備充実や、学校図書館の環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児 童</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>79.0</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>89.3</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が15ポイント上回った。児童の肯定的回答率が4.3ポイント上回った。コロナ禍でも年間を通して図書利用が増えた。授業内容に関連した図書は、公共図書館からも貸していただき、授業の幅が広がった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況が落ち着いたら、図書館内で調べ学習ができるよう、環境整備に努める。 ・1人1台端末とバランスをとりながら、図書の良さを活かした学習に取り組ませたい。 ・学校では、取り組んでいるが、保護者には伝わりづらい。 ・ICT を活用していることを便り家庭に伝える。 	教職員	保護者	地域住民	児 童	100	79.0	/	89.3	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100	79.0	/	89.3								
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり の心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思 いやりの心をもってい る。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 高齢者への感謝やいたわりの心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。</p> <p>② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育む。</p> <p>③ 敬老の日に合わせて、地域の高齢者への手紙を作成し、交流を深める取組を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児 童</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>90.0</td> <td>100</td> <td>88.8</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が15ポイント上回った。児童の肯定的回答率が3.3ポイント上回った。感謝の会の代わりに書いた地域の方々へのお手紙に感謝の気持ちを込めることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着いたら、生活科や総合的な学習の時間などにおいて高齢者と触れ合う活動を計画し、交流を深めていくなかで、思いやりの心を育てていきたい。 ・道徳科の授業を通して、引き続き生命尊重や人権を扱った題材に触れていく。 	教職員	保護者	地域住民	児 童	100	90.0	100	88.8	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100	90.0	100	88.8								

<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間、家庭科、社会科における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、実践できる場を設定する。</p> <p>② 自分の身の安全を守ることへの意識を高めるために、各種災害を想定した避難訓練等を実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73.0</td> <td></td> <td></td> <td>86.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が12ポイント下回った。児童の肯定的回答率が1.5ポイント上回った。持続可能な社会をつくるための視点として、環境問題や防災を焦点化し、自分の行動をしっかりと振り返ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・避難訓練の仕方、教職員の共通理解をしっかりと図り、スムーズな実施ができるようにしていく。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	73.0			86.5
教職員	保護者	地域住民	児童							
73.0			86.5							
<p>B1 児童は、進んで体力づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、休み時間や放課後に進んで体を動かしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 75%以上</p>	<p>① 体育等の授業において、自主的な体力づくりにつながるような学習内容を工夫する。</p> <p>② 各種検定やミニマムを活用し、休み時間や放課後等に児童が進んで体力づくりに取り組む意欲がもてるよう努める。</p> <p>③ 学級活動、保健学習、食育教育などを通して、体を動かすことの大切さに気付かせ、意欲付けにつなげる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td> <td>65.8</td> <td>95.7</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が9.2ポイント下回った。児童の肯定的回答率が5.0ポイント上回った。保護者に学校での取り組みが伝わりにくかったことが評価の低下につながってしまったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・保護者の視点は放課後に向いており、放課後遊びが制限されている現状、評価が低下してしまったことについてはそれを受け止めたい。 ・児童は各種検定などにしっかりと取り組んでおり、自己評価も高いので、そういった情報を知らせる場を学年便りなどで設けていく必要がある。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6	65.8	95.7	90.0
教職員	保護者	地域住民	児童							
94.6	65.8	95.7	90.0							
<p>B2 児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身につけている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、家庭でも、家庭学習や読書の習慣が身につけている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の実態に応じて、宿題や家庭学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>② 朝の読書や読み聞かせ、図書館司書によるブックトークなどで読書意欲を喚起し、家庭での読書につなげるよう努める。</p> <p>③ 家庭学習強化月間や読書週間を設定し、各種便りなどで保護者に家庭での習慣化について働きかける。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>70.4</td> <td>95.0</td> <td>86.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が14.6ポイント下回った。児童の肯定的回答率が1.5ポイント上回った。児童自身は、家庭学習・読書共に取り組んでいると感じている。</p> <p>【次年度の方針】 ・学年だよりや懇談会等で家庭学習や家読の啓発を図る。 ・年度初めの意識づけを図る。 ・保護者にも児童の取り組みが伝わるように、家読などの実践を重ねていきたい。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	70.4	95.0	86.5
教職員	保護者	地域住民	児童							
97.3	70.4	95.0	86.5							

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用するとともに、必要に応じてケース会議等を行い、組織全体で指導にあたる。</p> <p>② ユニバーサルデザインのよさを意識した授業を展開し、適切な支援に努める。</p> <p>③ 通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>91.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が6.9ポイント上回った。特別支援コーディネーターを中心に、通級指導教室担当、担任等の連携をしっかりととり、今後も組織的に対応する校内支援体制の充実を図っていく。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常学級においても必要に応じて個別の支援計画を作成し、実態に応じ、合理的な配慮を伴う指導を行う。 ・必要に応じケース会議などを行い、校内支援体制を充実させ、組織的に対応する。 	教職員	保護者	地域住民	児童	91.9			
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	91.9										
<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、「いじめをしない、させない、許さない」心を醸成する指導の充実を図る。</p> <p>② いじめアンケート(年4回)、教育相談等による早期発見、早期対応に心掛けるとともに、全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。</p> <p>③ 「いじめゼロ強調月間」や児童会の「いじめゼロ集会」などの場を適切にとらえ、随時積極的な指導を展開する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.6</td> <td>82.7</td> <td>90.9</td> <td>99.0</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が2.3ポイント下回った。児童の肯定的回答率が14.0ポイント上回った。年間を通して様々な取り組みを行ってきた成果が表れていると考えられるが、学校で行っていることが依然として保護者には伝わっていないことが予想される。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して人権感覚の醸成を図る。 ・学校 HP や懇談会時など積極的にいじめ対策の取組についての情報を分かりやすく発信していき、家庭や地域と連携していじめが許されない行為であることを指導していく。 ・いじめ防止対策推進法や本校のいじめ防止基本方針についての研修を年度初めのうちに行う。 ・児童が学校のいじめの授業などについて、家庭で話をしないため、保護者のポイントが低い可能性がある。 ・学校の取り組みを家庭に伝える手段を考える。 	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6	82.7	90.9	99.0	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6	82.7	90.9	99.0								
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、居がいのある学級づくりに向けて認め励ます指導に努める。</p> <p>② 教育相談、アンケート、QU調査等の結果を活用し、不登校の兆候や傾向の児童に対し校内体制で支援を行うとともに、家庭と連携を図る。</p>	<p>【【達成状況】】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>91.9</td> <td>91.0</td> <td></td> <td>96.5</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が11.5ポイント上回った。これまでの成果が表れていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事など様々な場において児童が活躍できる場面やお互いに認め合う活動を継続していく。 ・日々の授業の中で一人一人が活躍できる場面を意図的に作るように努力する。 ・年2回の教育相談、年4回はいじめアンケート、欠席1日で家庭に連絡・2日で家庭訪問の確実な実施など、個別の対応を充実させる。 ・学年会やケース会議、児童指導委員会、職員会議の情報交換会などを通じ、組織的に対応を行っていき、校内支援体制の充実を図る。 	教職員	保護者	地域住民	児童	91.9	91.0		96.5	
教職員	保護者	地域住民	児童								
91.9	91.0		96.5								

目指す学校の姿	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 外国人児童について全校で共通理解を図り、個々の実態に応じた指導、必要な支援を組織的に行う。</p> <p>② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。</p> <p>③ 必要に応じて外部機関との連携を図り、本人だけでなく、家族に対しての支援体制も整える。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の定的回答率が6.9ポイント上回った。教職員で連携して取り組んでいる成果が表れていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実による人権感覚の醸成を図る。 ・児童指導委員会などの活用により、児童理解を深めながら、必要な支援を組織的に行う。 ・必要に応じ、保護者や専門機関との連携を図る。 	教職員	保護者	地域住民	児童	91.9			
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	91.9										
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、児童の思いを生かした、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。</p> <p>② 子供たちがいきいきと活動できる学級づくりに力を入れる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78.4</td> <td>91.6</td> <td>96.2</td> <td>89.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が6.6ポイント上回った。児童の肯定的回答率が4.3ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が個を活かし、主体的に取り組むことができるよう、活動の時間や活躍の場を意図的に設けていく。 ・よりよい取組について、学年間や職員間で共有していく。 ・感染症の状況をみながら、教育活動を積極的に行う。 	教職員	保護者	地域住民	児童	78.4	91.6	96.2	89.3
教職員	保護者	地域住民	児童								
78.4	91.6	96.2	89.3								
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 学校課題を中心とした全校体制による授業研究・一人1研究を通して、「分かる・できる授業」づくりを積極的に推進する。</p> <p>② 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。</p> <p>③ 朝の学習を活用して基礎学力の向上を図る。(石井道場を含む)</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>83.4</td> <td></td> <td>97.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が12.4ポイント上回った。年度当初より日々の授業の中で「分かる・できる授業」づくりに取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに応じた支援の充実を図りたい。 ・学力テスト等の結果を分析し、身に付けさせたい力を共通理解し、授業でも活かしていきたい。 	教職員	保護者	地域住民	児童	100	83.4		97.4	
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	83.4		97.4								
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 教職員がチームとしての意識を醸成するための関係づくりに努める。</p> <p>② 目標達成、課題解決に向けて学校全体の共通理解の下、連携・分担組織を活用して業務に取り組む</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が12.0ポイント下回った。コロナ禍ではあるが、行事は少しずつ実施できるようにはなっているが、一人一人の協働性・同僚性を高める必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が一致協力して行事等に当たることで、一人一人の意識の高揚を図る。 ・「ほう(報告)・れん(連絡)・そう(相談)」を密にして、協働性・同僚性を高める。 	教職員	保護者	地域住民	児童	73.0				
教職員	保護者	地域住民	児童								
73.0											

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 一人1スリム化の提案、行事の精選を行うと共に、事務職員の視点で業務改善に取り組みスリム化を図る。</p> <p>③ 職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティアの活性化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が20.1ポイント下回った。業務改善による勤務時間や負担軽減が実感に至らなかった。コロナウイルス感染症拡大防止負担を軽減するには至らなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部人材（学校支援ボランティア等）の効果的な活用をより一層図る。 職員の業務の負担軽減に向けて、教職員一人一人の意識改革を目指す。 定期的に勤務時間の実施について、教職員が振り返りを行い、メンタルヘルスの維持に努められるようにする。 	教職員	保護者	地域住民	児童	64.9			
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	64.9										
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 学校園のテーマに基づき分科会・教科部会で重点化を図り、協働体制で取り組み小中一貫教育を推進する。</p> <p>② 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。</p> <p>③ 「小中一貫教育 地域学校園」の取組を学校だよりや学校ホームページ等で地域、家庭に伝える。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.2</td> <td>80.8</td> <td>90.5</td> <td>67.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が4.2ポイント上回った。保護者の肯定的回答率が4.2ポイント下回った。取組内容を学校だよりやHP等で発信することは効果的であったと考えられるが、児童への周知という点では別の方策が必要であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症対策の範囲内で地域学校園内の小中学校と連携しながら、各部会・分科会で協働しながら取組の充実を図るとともに、保護者や地域へ取組内容等HP等を利用し発信をしていく。 	教職員	保護者	地域住民	児童	89.2	80.8	90.5	67.0	
教職員	保護者	地域住民	児童								
89.2	80.8	90.5	67.0								
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 石井小学校地域協議会（きずな）を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。</p> <p>② 本校の特色ある教育活動である実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習の実施に向けて、地域協議会と連携し、計画的に地域の教育力を生かす取組を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>85.7</td> <td>96.3</td> <td>89.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が0.7ポイント上回った。地域住民の肯定的回答率が11.3ポイント上回った。今年度は、コロナウイルス感染症の影響で様々な活動が制約されてきたが、保護者や地域の方々の協力が得られたのではないかと考える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症対策の範囲内で地域の教育力を十分活用できるように、地域協議会との連携をとりながら教育活動を推進する。 	教職員	保護者	地域住民	児童	100	85.7	96.3	89.3	
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	85.7	96.3	89.3								

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 校内での安全確保や、各教科における授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。</p> <p>② 地域協議会等による地域人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>85.7</td> <td>96.3</td> <td>89.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が0.7ポイント上回った。地域住民の肯定的回答率が11.3ポイント上回った。児童の安全を守るボランティアの方々の活動が評価されたと考える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、コロナウイルス感染症対策を図りながらボランティアの活用を図ってきたが、このことをもとに学習活動に必要な支援を充実させるために、活動内容を整理し、人材の確保をする。 	教職員	保護者	地域住民	児童	100	85.7	96.3	89.3
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	100	85.7	96.3	89.3							
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>89.9</td> <td>93.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が12.3ポイント上回った。保護者の肯定的回答率が4.9ポイント上回った。新型コロナウイルス禍の中、適切な保健指導や、消毒などの環境の整備などに努めたことが評価されたと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの回答が非常に高い水準なので、今後も適切に実施していく。 	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	89.9	93.1		
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	89.9	93.1									
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 教科・領域等に関連した教育図書の整備充実及び市図書館の活用を図り、学校図書館の環境整備の充実に努める。</p> <p>② 授業で活用できるICT機器の整備に努め、活用法を探ると共に、全ての教員が有効に活用できるよう研修等を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>79.0</td> <td></td> <td>89.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が15.0ポイント上回った。児童の肯定的回答率が4.3ポイント上回った。本年度から、1人1台タブレット端末が配付され、情報指導主任を中心に職員研修を通じて各担任に使用方法の講習や伝達が積極的に行われた。それにより、様々な学習の場面で活用されるようになってきた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に関連した図書を整備し、授業で活用できるよう引き続き取り組んでいきたい。 肯定的なポイントが高いので、取り組みを継続的に続けていく。 	教職員	保護者	地域住民	児童	100	79.0		89.3	
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	79.0		89.3								

	<p>B3 学校は、より良い教育環境作りに向けて子供たちと共に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、楽しくやる気が起きる環境を整えようとしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 様々な教育活動において、子供たちが生き生き活動し、活躍できる場の設定を行う。</p> <p>② 教室内外において、子供たちの活動や意欲を喚起する環境作りを子供たちと共に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 147 1476 226"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>89.4</td> <td>96.4</td> <td>93.2</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が8.2ポイント上回った。各学級での児童の作品や、学校全体での取組、委員会やクラブの作品などを教室内外に掲示したことで、向上心や達成感を得ることができたと考えられる。また、清掃用具を整えたり、強化週間などの放送で繰り返し啓発を行ったりしたことで、清掃しやすい環境を整えることができたと考えられる。コロナウイルス感染症の影響で様々な制約がある中で、子供たちのために担任始め教職員が協力しながら活動の工夫に取り組むことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に取り組むことができるように、教室内外の掲示物を整え、物品を整理する。 今年度の取組をもとにして、児童が主体的に活動するために、教職員が協力しながら活動を工夫する。 	教職員	保護者	地域住民	児童	100	89.4	96.4	93.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	89.4	96.4	93.2								
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B4 教職員は、児童にとって学校生活が楽しく、居がいのある学校づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「先生たちは、学校生活が楽しくなるよう工夫してくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の実態をとらえ、一人一人が学習や様々な活動を通して居がいを感じられるよう授業や学校行事などを工夫するよう努める。</p> <p>② 児童が充実感や達成感を感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 813 1476 891"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.3</td> <td>85.7</td> <td>95.7</td> <td>95.9</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が0.7ポイント上回った。児童の肯定的回答率が10.9ポイント上回った。コロナ禍の中でも、様々な行事を工夫して実施したことで、児童の肯定的回答が高くなったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の経験を生かし、授業や学校行事の後に振り返りを行うことで充実感や達成感を実感させる。また、ほめほめカード等の取組により居がいを感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。さらに、家庭にも伝え、成果を共有する。 	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	85.7	95.7	95.9
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	85.7	95.7	95.9								

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果から、学校の教育活動全般にわたり、一定の肯定的評価を得られたものと捉える。

「目指す児童の姿」に関する項目では、14項目中9項目で数値目標を達成した。

そのうち、A1「進んで学習」、A2「思いやりの心」、A6「健康や安全」、A8「英語のコミュニケーション」、A11「高齢者に対する感謝やいたわりの心」については、児童、保護者、地域、教職員の全ての対象、もしくは評価を得た対象の全てから肯定的回答率90%程度以上の高い評価を得た。

「目指す学校の姿」に関する項目では、14項目中7項目で数値目標を達成した。

そのうち、A13「特別な支援を必要としている児童の実態に応じた適切な支援」、A15「不登校を生まない学級経営」、A16「外国人児童等の実態に応じた適切な支援」、A24「安全な学校にむけた環境づくり」、B3「楽しくやる気がでる学校づくり」については、児童、保護者、地域、教職員の全ての対象、もしくは評価を得た対象の全てから肯定的回答率90%程度以上の高い評価を得た。

「本校の特色・課題等」に関する項目では、B4「児童が学校生活に居がいを感じられるような工夫」1項目について、数値目標を達成した。

本年度は、昨年度と比較し、職員の肯定的回答率が低下傾向にある。出口の見えない新型コロナウイルス感染症による影響や感染症対策等による教師の多忙感を解消するための働き方改革の推進は、喫緊の課題であるとする。しかし、職員は、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、認め伸ばし、豊かな心の育成に努めてきた。また、一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努めてきた。

個々の項目については、児童、保護者、地域、教職員のうち、いずれかの対象の肯定的回答率が80%以下の項目は以下の

とおりである。

「目指す児童の姿」に関する項目では、A4「時と場に応じたあいさつ」、A5「目標に向かう粘り強い取組」、A7「夢を持って生きる」、A9「宇都宮市の良さの理解」、A10「ICT機器や図書等の活用」、A12「持続可能な社会への関心」、B1「進んで運動」、B2「家庭における学習・読書習慣」の8項目となった。

「目指す学校の姿」に関する項目では、A19「チーム学校」、A20「教職員の勤務時間、業務の効率化」、A21「小中一貫・地域学校園の取組」、A25「ICT機器や図書等の整備」の3項目となった。

「あいさつ」については、保護者の肯定的回答率が80%を下回っている。学校内ではあいさつを元気に行っており、教職員の肯定的回答率も昨年度より向上しているが、保護者の肯定的回答率は昨年度より低くなっている。今後、学校における指導については、学習規律や日常生活面の指導において、返事やあいさつの指導を一層徹底して行っていきたい。また、道徳の授業においては、心の教育を行い、あいさつや返事に対する学習を行い、道徳性の向上を目指していきたい。また、保護者や地域関係者とも連携し、家庭や地域におけるあいさつ指導についても啓発活動を進めたい。

うつのみや学、情報活用能力、SDGs、夢を育む学習等、今日的な課題に対しての教育については、具体的な方策を講じ、教育実践をしてきたところである。特に今年度はタブレット端末の導入が進み、ICTの活用により様々な成果が見られたが、目的に応じた他メディアとの組み合わせ等の研究が必要である。今後、学校の教育活動について、さらに創意工夫を凝らしながら取り組んでいくとともに、児童の活動の様子等については、各種のたよりや学校HP等を効果的に活用し、家庭や地域に積極的に情報を発信していくことにより、理解がえられるようにしていきたい。

7 学校関係者評価

- ・コロナ禍で何かと余計な仕事が増えていると思うが、先生方にはお体を大切にご精励いただきたい。
- ・学校での様子をHPで公開していることが、保護者や地域の人々に伝わりやすく、とても良い。
- ・保護者が時々一緒に下校する姿を見かけるが、スクールガードの方に挨拶しない方が居る。まず、大人が見本を見せるべきだと思う。
- ・授業の一環として石井の歴史について学んだりペタンクを取り入れたりすることはよいことだと思う。公共交通や自治会のことでもカリキュラムに入れてもらえると、嬉しい。
- ・水曜ボランティアの作品をもっと多くの人に見てもらえる工夫をするとよいと思う。
- ・「平日の昼」の会議開催は働く世代は参加しにくいので、『ZOOM』を使用した会議等検討が必要かと思う。
- ・子供が親に夢を話していないことが多いと思うので、親と子と学校の連携が取れる環境が必要だと思った。
- ・学校業務の効率化についての教職員の評価が低いのが気になった。他を責めたり、上からのお達しを待っていたりするのではなく、まず、できることから、隣の先生、学年の先生、全体で話し合い、石井小方式をつくりあげてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・コロナの感染状況を踏まえながら感染対策を実施するとともに、タブレット端末の活用も図りながら学習内容の充実を図ってきた。次年度も感染状況に応じて、感染対策を柔軟に着実に実施し、タブレット端末などを有効に活用しながら学習内容の定着を図る。
- ・コロナ禍のため、挨拶を行いにくい環境にあるが、地域・家庭と連携した取り組みを進め、挨拶に対する意識の高揚を図る。
- ・長期的にも短期的にも「自分はこうなりたい」という夢をもつことができる児童を育成するため、キャリア教育との関連を図りながら、地域・家庭と連携して「未来夢学習」を重点的に推進していく。
- ・総合的な学習等で、ペタンクや石井地区の公共交通に目を向けさせ、地域学習の充実を図る。
- ・コロナの感染状況を踏まえながら、学習支援や見守りボランティアの活動を実施し、その活動内容をHPなどで紹介してボランティア活動の拡充を図る。
- ・スクールガードの見守り等により児童の安全がおおむね守られているが、今年度、交通事故が2件起きた。交通安全教室や日常の下校指導・登校指導を着実にやり、交通安全に対する児童の意識の向上を図る。
- ・目指す教職員像に迫るため、居がいのある学校づくりを進めることで、教職員の協働性や自尊感情を高めていく。また、信頼される教職員となるため、いじめや不登校の課題に対する組織体制を整えるとともにチームワーク力を高めていく。さらに、教職員が勤務時間を意識した働き方や業務の効率化を図れるように対策を講じていく。